



2026年5月13日

各 位

会社名	株式会社イーディーピー
代表者名	代表取締役社長 藤森 直治 (コード番号：7794、東証グロース市場)
問合せ先	代表取締役副社長 兼 総務部長 高岸 秀滋 (TEL 06-6170-3871)

ラボグロウンダイヤモンド製造用 20×20 mmまでの大型種結晶の発売に関するお知らせ

当社は、2026年5月13日開催の取締役会において、従来製品を上回る大きさの単結晶の種結晶を発売することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 新製品発売の経緯

当社は大型のダイヤモンド単結晶を製作できることを主要な優位点としており、ラボラトリーグロウンダイヤモンド（人工ダイヤモンド。以下、「ラボグロウンダイヤモンド」という。）製造用種結晶や基板、光学部品を販売してまいりました。創業以来継続して大型結晶の開発に注力してまいりましたが、この度、従来製品を上回る大きさの単結晶の種結晶を発売することといたしました。

当社は、ラボグロウンダイヤモンドが本格的に市場に出る以前から、気相合成法（CVD法）で製造するための原料である種結晶を製品として供給してまいりました。特に1カラット以上のブリリアントカット宝石を製作するのに適した7x7mm～10x10mmの種結晶は、世界的な標準種結晶として、インド等のラボグロウンダイヤモンド製造企業に向けて数多く出荷しました。

当社は大型のダイヤモンド単結晶の量産技術を確立しており、種結晶が高品質であることが当業界においては広く知られており、多くの企業で使用されてきましたが、ラボグロウンダイヤモンドの大型化が進展し、2023年11月には10カラットの宝石も製造することができる15×15mm種結晶を発売しました。

その後も、原石から宝石を切り出す際に、コンピューターによって形状の異なる宝石を複数個切り出す技術ができ、大型化はさらに進捗し、宝石の製造方法が大きく変化しました。大型の原石から多種類の宝石を多数個切り出すことが可能となり、生産効率が大幅に向上、それによって各ラボグロウンダイヤモンド製造企業から当社へは、大型の種結晶の発売が要請されておりました。

当社は創業以来継続して大型単結晶の開発に注力しており、2025年2月には30x30mmの単結晶を、基板やウエハ等として発売しましたが、上記の要請に応えるため、このたび既存の製品形状を上回る大型種結晶を発売することとしたものです。

2. 新製品の概要

(1) 新製品の概要

ラボグロウンダイヤモンド製作用の大型種結晶 [写真]

16x16mm～20x20mmの種結晶。

20x20x0.3mm (SH20203)、18x18x0.3mm (SH18183)、他

(2) 製品の特性

従来から販売している当社単結晶の種結晶と結晶品質等は同じです。

面 方 位：(100)面 3° 程度のオフ角があります。

側 面 方 位：通常は(100)、(110)については形状の限定があり。

窒素含有量：8ppm以下

形 状 仕 様：該当サイズの範囲で、1mm単位で指定。形状誤差は-0、+0.2mm

厚 さ 仕 様：0.3mm。厚さ精度は、-0、+0.07mm

(3) 本製品の発売日

2026年5月25日

3. 今後の見通し

これまで販売してきた種結晶を使った場合に比べ、より大型の宝石を製作することが可能となりますが、原石製造装置に依存します。15x15mmの種結晶では、ブリリアントカットの場合には10カラットが最大でしたが、それ以上のサイズも製造可能となります。また、多種類のカット形状を、多数個切り出すこともできますので、製造した原石からの宝石生産の効率が向上いたします。

種結晶の結晶品質としては、これまで好評を頂いている従来品と同等以上です。発売当初の出荷数は100個/月末満に限定されますが、本年中には500個/月を出荷できる生産能力を確保できる予定であり、受注状況によっては、さらに大規模な量産を行う所存です。

なお、2026年5月13日に開示いたしました当社グループの2027年3月期業績予想には、本製品の売上予想が含まれておりますが、今後、販売の状況が明確となり、業績に大きな影響を与える見込みとなった場合には、速やかに開示いたします。

以 上

写真：20x20mm、18x18mm、15x15mm の種結晶

